

I N F O R M A T I O N

■ 入試関連情報

いよいよ本格的な入試シーズンの到来です。2006年度の本科の入試は右記の通りに実施します。

詳細については入試課までお問合せください。

TEL.075-864-7878 (直)

FAX.075-881-7133

nyushi@kyoto-saga.ac.jp

◎2006年度入学試験

京都嵯峨芸術大学大学院		
一般	2/18 (土)	本学
京都嵯峨芸術大学		
一般 (前期)	1/26 (木)	本学・東京・岡山
一般 (後期)	2/27 (月)	本学
3年次編入学 (後期)	2/18 (土)	本学
京都嵯峨芸術大学短期大学部		
一般 (前期)	1/25 (水)	本学・東京・岡山
一般 (後期)	2/26 (日)	本学
京都嵯峨芸術大学短期大学部専攻科		
後期	2/18 (土)	本学

■ 卒業・修了式、制作展授賞式のお知らせ

平成17年度京都嵯峨芸術大学及び京都嵯峨芸術大学短期大学部卒業式、並びに京都嵯峨芸術大学短期大学部専攻科修了式を下記日程にて執り行います。また式終了後、場所を移して祝賀会を催します。

<当日の日程>

日時：2006年3月20日(月)

10:30～ 第33回制作展授賞式 (本学講堂)

11:00～ 第2回京都嵯峨芸術大学卒業証書授与式 (//

第34回短期大学部卒業証書授与式 (//

第33回専攻科修了証書授与式 (//

15:00～ 教育後援会主催卒業・修了祝賀会 (京都宝ヶ池プリンスホテル)

■ 附属博物館／附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」スケジュール

本学附属博物館と附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」の本年度後期(2006年1月～3月)の予定は次の通りです。ぜひお立ち寄り頂き、芸術に触れてください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。(両施設とも入場無料)

<博物館>

・DATA GLASS PROJECT

島津製作所の協力のもと、松本助教授を中心としたグループによって、データグラスという小型軽量のヘッドマウンテンディスプレイと携帯コンピューターを使用した作品を展示します。

<ギャラリー>

・めくるめくるファンタジー 平成18年1月10日(火)～1月15日(日)

・第3回活き粋倶楽部展 平成18年1月17日(火)～22日(火)

・卒業進級制作展 平成18年2月8日(水)～2月12日(日)

○お問合わせは博物館／ギャラリー課まで

TEL.075-864-7852 (直) FAX.075-881-7133 museum@kyoto-saga.ac.jp

■ 京都嵯峨芸術大学公式サイトのご案内

京都嵯峨芸術大学公式サイトでも嵯峨芸情報をご覧頂けます。

<PC・携帯>

http://www.kyoto-saga.ac.jp

また、こちらのQRコードを使って携帯サイトにアクセスすることも出来ます。ぜひご利用ください。



■ 大学行事予定

<2006年1月～3月の予定>

・1月21日(土) 授業終了

・1月26日(木)～2月1日(水) 後期定期試験期間

・2月8日(水)～2月12日(日) 制作・進級展

・2月21日(火) 月例法要 14:00～

・3月1日(水) 卒業判定

・3月15日(水) 月例法要 14:00～

・3月20日(月) 制作展授賞式 10:30～
卒業・修了式 11:00～
祝賀会 15:00～

■ 大学よりお知らせ

SAGA ART STATION通信

京都嵯峨芸術大学がお送りするインターネットラジオ番組「SAGA ART STATION」(京都三条ラジオカフェ)は、2005年9月の放送開始以来、本学教員や在校生・卒業生等を中心に様々な嵯峨芸情報を発信してきました。今後の放送予定は以下の様になっています。

<今後の放送予定>

第4回／1月18日(水)

第5回／2月15日(水)

第6回／3月15日(水)

放送時間／19:30～20:00

＊こちらで過去の放送を聞くことが出来ます。

(SAGA ART STATION URL)

http://radiocafe.jp/sagabi/index.htm

京都嵯峨芸術大学広報

第15号

2006年1月20日発行

編集●京都嵯峨芸術大学 企画広報室
発行●学校法人大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学

〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地
TEL.075-864-7859
FAX.075-882-7770
info@kyoto-saga.ac.jp

印刷●大光印刷株式会社

京都嵯峨芸術大学 広報

KYOTO SAGA

UNIVERSITY OF ARTS

PUBLIC RELATIONS

Contribution

「メディアアート分野」について

京都嵯峨芸術大学 造形学科(メディアアート分野)教授 三宅章介



News

理事会・評議員会報告

本学でのアスベスト状況

後期特別講座活動報告

「京都・嵐山花灯路—2005」

京都嵯峨野文化サロン報告

「第34回制作展」について ほか

Topics

教員の活躍

本学学長による翻訳本出版

在学生の活躍

平城京のイメージ画を制作／フラッグアート展で受賞／ライブペイント制作を実施／妖怪仮装行列プロデュース／「変容する空間'05」に参加／DESIGNER'SWEEKに参加 ほか

卒業生の活躍

本学卒業生が作品を発表

大学の活動

分野別企画展について／「嵐芸祭」報告／ハロウィーンパーティー報告／「あらし山びこ」通信 ほか



Information

入試関連情報

大学行事予定

卒業・修了式、制作展授賞式のお知らせ

大学よりお知らせ

SAGA ART STATION通信

京都嵯峨芸術大学

公式サイトのご案内 ほか



KYOTO SAGA
UNIVERSITY OF ARTS

京都嵯峨芸術大学が誕生した2001年、造形学科にメディアアート分野が発足しました。メディアの意味からすれば、あらゆる芸術がメディアアートの要素を持ちますが、この分野では近年急速に発展してきたコンピュータやネットワーク、デジタル映像技術などの情報メディア技術に支援された現在進行形の表現領域を指しています。従来のアートの枠組みを超えた次世代の表現を探ると共に、永い歴史の中で培われてきた伝統的な美意識や表現を創造的に継承することも大切な課題です。

1年次前期は特にコンピュータには触れず、学科共通基礎として造形の普遍的原理とモノづくりの意味を探ります。後期は日本画、油画、版画、メディアアート、彫刻の中から2領域を選択します。メディアアート領域では「光の表情」をテーマにカメラ固有の表現特性や光と影の織りなす視覚効果について学びます。カメラはデジカメに代表されるようにリアルワールドとデジタルのヴァーチャルワールドを結びつけるインターフェイスとして重要な役割を担っています。3DCGは光のふるまいの精緻なシミュレーションに他なりません。ここで映像やCG表現の基本原則と手法をしっかりと身

につけます。

2年次よりいよいよメディアアート基礎工房で学ぶことになります。ここではメディアアート制作の基礎となる発想の柔軟性を養い、コンピュータや映像機器などのメディア特性を活かした表現技法を学びます。工房開設にあたっては、できるだけ理想的な制作環境を準備しました。工房には個人専用のコンピュータが設置されており、学生はフルタイムに自由に使うことができます。全てインターネット接続環境にあり、いつでも制作やレポートのための資料収集やメール送受信が可能です。また、デジカメ、ペンタブレットなどの周辺機器や自宅のソフトを持ち込む学生もいます。ほぼ毎日、延長使用届が出され、休暇中も多数の学生が登校し制作に励んでいます。実習はハードディスクやメモリの取り付け、オペレーティングシステムやアプリケーションソフトのインストールから始まります。主な課題は2D、3DCG、ビデオ撮影と編集、

メディアアート分野実習風景



「メディアアート分野」について

三宅 章介 ●京都嵯峨芸術大学 造形学科(メディアアート分野) 教授



media arts

インタラクティブ(対話型)コンテンツ、Webギャラリーの制作などで、いずれも1課題に3~4週間かけますので、納得いくまで作品作りに没頭できます。その結果、初心者でもハードやソフトの基本的メカニズムに関する理解が深まり、これらを活用した発想や表現技法が身につきます。今、日本では様々な分野でモノづくりの空洞化が深刻な問題になっています。将来、プロデューサーやディレクターを目指す人も、まずはデジタルメディアを駆使したモノづくりの喜びを味わってほしいものです。

3・4年次になるとメディアアート制作工房に移ります。デジタルシネマ、サウンド、3DCG、映像・アニメーションなどの専門的技術を深めると共に、学生個々の志向性や適性に基づき、メディアアート、メディアデザイン、二つの側面から新しいメディア技術と人々の心をつなぐ方法論の研究と作品制作を進めます。これらは専門課程の2年間を通じて継続することも、半期ごとに変更することも可能です。

■メディアアートゼミ

すべてのメディアが対象ですが、特に映像やインスタレーションを中心とした制作を行います。コンピュータの使用が表現の中心ではありませんが、電子技術を用いた表現と従来の美術表現の融合を目指します。

■メディアデザインゼミ

芸術表現を含む様々な精神活動の成

果が市場価値という単一の尺度で計られる今日の文化状況は、決して豊かなものとはいえません。また、皮肉にもインターネットや携帯電話などの普及が人と人とのコミュニケーションを疎外し、様々な社会病理現象の背景となっていることも見過ごすことができません。

かつて、産業革命当時の生活様式と心の荒廃をデザインの力で克服しようとした広汎な芸術文化運動がありました。情報革命の真ただ中にある現在、再びデザインの果たすべき役割が再認識されなければなりません。デジタル技術に支えられたメディア環境を真に豊かなものとするため、人々が共有共感できるメディアデザインの提案を行っていきます。

編入生や副専攻の学生が多いこともこの分野の特徴です。メディアアート、映像、CGやゲームなど、様々な関心をもった学生が集まり、互いにインスパイアしながら、それぞれのコンセプトやスキルを磨いています。

アートやデザイン、それぞれの立場から、同時代の文化状況に対して提言できる人材が育ってくれたらと願っています。

NEWS							
理事会報告				大学報告			
理事会・評議員会報告				本学でのアスベスト状況			
10月20日に開催された理事会において、平成18年度予算編成基本方針が決定され、同日開催された評議員会で承認されました。また平成19年度に芸術学部開設予定の新学科構想、短期大学士の学位授与に係る短期大学の学則変更について理事会で決定されました。新学科構想につきましては、詳細が明らかになった段階でお知らせする予定です。平成18年度予算編成方針の概略は次の通りです。 ----- 平成16年度学校基礎調査によると、私立大学の約3割が入学定員を充足していない状況で、文部科学省では全入時代の到来を平成19年度と予測しています。一方、中央教育審議会においては「我が国の高等教育の将来像」として、21世紀は「知識基盤社会」と位置づけ、大学教育の質的向上を目指すことを大きな方向性としています。厳しい経営環境を迎える中、大学の質保証への要請が強まり、第三者評価機関による認証評価が義務付けられました。 本学園は大学・短大部とも定員を確保していますが、厳しい社会状況を認識した上で堅実な学園運営を続けていかねばなりません。さらに、時代の要請に対応した芸術学部新学科設置の構想、短大部の教育課程改編等、新たな芸術教育推進に向けて検討を進めています。これらは、教育憲章に謳った「建学精神の再認識」「時代のニーズに応える教育システムの構築」「教職員の資質向上」「地域への文化情報発信の拠点形成」といった目標の具現化につながるものでありますが、学園の財政基盤の安定がなされてこそ実現できる課題であります。本学園は、平成18年度に認証評価を受けるべくその準備を進めています。項目毎に評価点検を行うことにより問題が明確になってきています。それらの課題を整理し、来年度の予算編成方針を以下のように設定しました。				石綿（アスベスト）による健康被害の問題が、社会的に大きな関心を集めています。本学での石綿使用状況、今後の対応について報告いたします。 ・本学建物内において、緊急に除去すべき石綿（アスベスト）含有の吹き付け材はありません。 ・天井内等に閉じ込められている吹付け材の石綿使用状況については、現在成分調査を継続して行っています。ただし、これらは閉じられた空間で空気中に飛散していないため、学生、教職員には影響ありません。 ・石綿（アスベスト）含有の可能性のある建材（ボード等）は、そのままの状態では飛散の恐れはありません。ただし、解体工事等の際に石綿（アスベスト）含有の建材がある場合は、対策を講じて工事を行います。			
				大学報告			
				大学報告			
				京都嵯峨野文化サロン報告			
				後期特別講座活動報告			
				本学特別講座の本年度後期は以下の通りでした。今後もより内容を充実させたいと考えています。			
JANUARY 2006							
		4					

NEWS							
				大学報告			
				「第34回制作展」についてのご案内			
＜2005年度後期特別講座実績＞ ・「造形と音楽」（堀清和氏） ・「西アフリカの伝統文化ーブラックアフリカからの熱きメッセージー」（染織造形作家 増山紀代氏） ※いずれも10月25日（火）開催				■卒業・修了制作展 会期／2006年2月8日（水）～2月12日（日） 時間／9：00～17：00（※入館は16：30まで） 会場／京都市美術館（京都市左京区岡崎公園） 大学院1回生、芸術学部4回生、短期大学部2回生、同学部専攻科1・2回生 学生生活の中で磨いた感性と表現力を発表する、年に1度の学校を挙げて行なう展覧会です。4年間または2年間の集大成として、造形作品や研究論文等の学修成果を発表するのに加え、今年度新たに開設された大学院芸術研究科1回生の作品も京都市美術館に展示します。 大学院・芸術学部・短期大学部それぞれに次代への可能性を秘めた、新たな造形表現への挑戦が展開される“嵯峨芸”の制作展に、ぜひ足をお運びください。			
大学報告				「京都・嵐山花灯路ー2005」			
				12月9日（金）～18日（日）に嵐山で行われた「京都・嵐山花灯路ー2005」に本学も参加、同年8月に「愛宕古道街道灯し」で使われた手づくり大提灯が大覚寺大沢池のほとりに飾られました。また、同時に彫刻作品展・観光デザイン学科作品展が行われました。			
				大学報告			
				京都嵯峨野文化サロン報告			
				平成14年に始まり今回で第四回目となる「京都嵯峨野文化サロン」は、「自然と人の心が織りなす『源氏物語』の世界」をテーマに、10月8日（土）大覚寺にて開催されました。約330名の参加者を迎え、盛会に終えることが出来ました。今回の内容は、同志社女子大学教授の隴谷壽氏による講演、舞踊家の吉村桂充氏による上方舞の披露、園田学園女子大学教授の福嶋昭治氏と吉村氏による対談でした。ユーモアを交えた講演や対談、夜の幻想的な大覚寺と共に『源氏物語』の世界を表現した上方舞など、いづれもご参加頂いた方々に大変ご好評を頂きました。			
		5					

◎「第34回制作展」ポスター原画コンクール結果発表

2003年度より実施している在学生による制作展ポスター原画コンクールの今年度の結果が発表され、今年度は谷上公弥子さん（本学専攻科デザイン専攻2回生）の作品が選ばれました。

この作品を基に制作展実行委員会の学生スタッフが中心となって、第34回制作展のポスター2種類・案内ハガキ1種類を作成しました。ポスターは1月下旬より各交通機関等で掲出される予定です。



「第34回制作展」案内ハガキ

教員の活躍

本学学長による翻訳本出版

本学の三好郁朗学長（フランス文学専門）が翻訳された「シュルレアリスムと性」（グザヴィエル・ゴーチエ著）が、8月10日平凡社より出版されました。価格は1,995円（本体：1,900円）、書店にてお求め頂けます。

在学生の活躍

平城京のイメージ画を制作

2010年に「平城遷都1300年記念事業」が奈良県で開催されます。それに伴い、本学学生2名が芸術学部の箱崎睦昌教授（日本画）の指導の元、当時の平城京のイメージ画を制作しました。芸術学部造形学科（日本画）4回生達富弘恵さん・正田由香里さんの2名による作品は、同記念事業で展示される予定です。当時の平城京の絵が残っておらず、お二人は当時の文献や現存する奈良時代の建築物を基にイメージを膨らませ作品に仕上げられたそうです。



左から達富弘恵さん、正田由香里さん

フラッグアート展で受賞

岐阜フラッグアート展実行委員会が主催する「第9回フラッグアート展2005」で、芸術学部造形学科（日本画）2回生楠本明希さんの作品「松竹梅」が優秀賞を受賞しました。10月1日（土）の公開審査に基づき各受賞作品が決定され、各受賞作品は岐阜市内のメインストリートに10月末まで展示されました。

ライブペイント制作を実施

10月22日（土）～10月23日（日）の2日間、京都市勧業館「みやこめっせ」で「画材ショー2005京都」が催されました。京阪神の芸術系大学が五感をテーマに各々を担当、本学は「触覚」をテーマにしたコラボレーション作品を出品しました。芸術学部造形学科（油画）3回生伊藤仁さん、同学科（油画）2回生中西兼太さん、同学科（彫刻）3回生永井智子さんの参加によるライブペイントが行われました。



「画材ショー2005京都」ライブペイント制作風景

妖怪仮装行列プロデュース

本学大学院修士課程の河野隼也さんプロデュースによる、大將軍商店街での妖怪仮装行列が10月15日（土）に行われ、その模様が昨秋発売の「週刊文春」（2349号）に写真入りで掲載されました。

「変容する空間'05」に参加

11月22日（火）～11月25日（金）まで、東京ビッグサイト西ホールにおいて、「変容する空間'05」が開催され、本学から短期大学部専

攻科1回生松村奈津美さん、短期大学部（染織）2回生若松宏美さん・中村舞さん・太田円さん・本田和恵さんの4名が参加しました。

オルゴール作品が入選

オルゴールミュージアムホール・オブ・ホールズ六甲が主催する、「オルゴール・アート作品大賞2005」において、芸術学部観光デザイン学科4回生野竿正幸さんの作品が入選しました。

DESIGNER'S WEEKに参加

今年で20年目を迎えるDAデザインアソシエーションは、あらゆるジャンルの「生活のなかのデザイン」に関わる企業・デザイナー・学校が、業界・業種の枠を越えて参加する催しです。

このうち「DESIGNER'S WEEK 2005」（東京／11月2日（水）～11月6日（日）、京都／10月13日（木）～10月16日（日））に本学学生から、
・芸術学部観光デザイン学科 3名
・短期大学部（インテリアデザイン標準コース） 3名
・短期大学部専攻科デザイン専攻 4名の計10名が参加しました。

卒業生の活躍

本学卒業生が作品を発表

10月22日（土）～11月13日（日）まで、神戸アートビレッジセンターで『神戸アートアニュアル2005「眺めるに触れる」』が開催され、同展覧会に芸術学部造形学科（メディアアート）4回生の金澤麻由子さんと、卒業生の木下寛明さんが参加しました。

金澤さんはハイデガーの「身体の二重感覚」という概念について視覚化した映像作品を、木下さんは展覧会場内やその他の場所を繋

ぐ対話型のインスタレーションを出品しました。

大学の活動

分野別企画展について

本学の分野別企画展についてのご報告です。後期については以下の通りです。今後も様々な企画展を通して、学内外の皆様に本学学生・教職員の活動をご覧頂けるべく努めていきたいと思っています。

<メディアアート分野>

- ・「コンテンポロリ」
- ・DATA GLASS PROJECT「モノの睡蓮」
- ・TRANS LABO「エントランス」（いずれも10月1日（土）～10月10日（月））
- <彫刻分野>
- ・大覚寺野外彫刻展
- 9月11日（日）～9月29日（木）
- ・有響館彫刻展「光と空間」
- 9月29日（木）～10月10日（月）



有響館彫刻展「光と空間」展示風景

学友会の活動

「嵐芸祭」報告

11月3日（木・祝）、4日（金）の二日間、本学において「嵐芸祭」が開催されました。今年も学生や地域の方々など多数のご参加を頂きました。学生作品展示企画「嵐展」を始めとした様々な催しが行われました。また、模擬店やフリーマーケットのほか、「JUDA」

や「野狐禅」ライブなども行われました。いずれも大盛況のうちに終わりました。

ハロウィーンパーティー報告

10月28日（金）学生ホールにて、ハロウィーンパーティーが催されました。ハロウィーンにちなんだ映画の上映会と上映会に参加した学生へのお菓子配り、学内に残っている学生達へのお菓子配りを、学生たちがハロウィーンの仮装をして行いました。本学で初めてのイベントに大盛り上がりでした。

同窓会の活動

ホームカミングデー報告

今回初めて学園祭（嵐芸祭）をホームカミングデーと位置付け、卒業生向けの様々な企画を催しました。卒業生の方々に多数ご参加頂きました。学園祭期間中の11月3日（木・祝）には、ばんばひろふみ氏の講演会と懇親会を行いました。いずれの企画もご参加頂いた方々に大変喜んで頂きました。

附属博物館／附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」

本学附属博物館と附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」は、学生・卒業生・教職員へ作品発表の場を提供すると共に、大学独自の企画展や公募展、ワークショップ等も開催し、本学の芸術・文化の発信場所として広く活用しています。

本年度後期（2005年9月～12月）の主な活動は以下の通りでした。今後も学内外に向けて広く芸術・文化を発信していきたいと思っています。

<附属博物館>

- ・観光芸術展一観光が育てた芸術作品―（11/2～12/22）
- *アートスペース嵯峨と同時開催

<附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」>

- ・イラストレーションコースF教室展（9/20～9/25）
- ・The new edge of art 展（9/29～10/16）
- *本学関係者による作品展
- ・観光芸術展一観光が育てた芸術作品―（11/2～12/22）
- *附属博物館と同時開催

附属図書館の活動

あらし山びこ通信

2005年5月から始まった附属図書館児童書コーナー「あらし山びこ」イベントも、12月で第7回を迎えました。「共に学び、共に育つ」という主旨のもと、本の読み語りや講演会等の活動を通して子どもたちと素敵な本との出会いを求めて、様々な工夫を凝らしています。2005年9月～12月の活動内容は下記の通りです。今後も「あらし山びこ」に集う全ての人々が、「共に学び、共に育つ」児童書コーナー作りを心掛けていきたいと考えています。

<2005年9月～12月の活動>

- ・9月 読み語り：「おじいさんとおばあさん」
- ・10月 講演会：「子どもと絵本」
- ・11月 読み語り：「秋のおくりもの」
- ・12月 読み語り：「クリスマスを楽しもう！」
- ※毎月第二土曜日 13：30～、有響館（森原キャンパス）にて開催。